

参院ODA特別委理事 谷合正明さん



政府開発援助（ODA）の使い方が妥当か、チェックするのが国会の役割だ。しかし、きちんとチェック機能が働いてきただろうか。無駄を見逃した部分があったことは否めない。原因は衆参両院ともODA問題の取り上げ方が単発的であり、議員側もODAに関する知識が不十分だったこと

があるのではないか。私は非政府組織（NGO）のスタッフとして、紛争中や紛争後の人道支援に携わり、現地で支援プロジェクトを企画してきた。ただ本音を言うと、「これが最も効果的な企画なのか」という不安の連続だった。

ODAの効果を見極めるのは確かに難しい。計画、実施、効果の検証というODAの一連のサ
たにあい・まさあき 参院政
府開発援助特別委理事。00〜03
年、国際医療ボランティア団体
「AMDA」職員としてイラク
などで人道支援にかかわった。

国会で効果のチェックを

イクルを継続して見守る必要がある。単発的に問題点を挙げ、それで終わるのでは不十分だ。こうした反省から今回、参議院にODA特別委員会を設けることになった。ODAの流れ全体をチェックすることで、より大きな視点で問題点をとらえる組織ができたことは大きな前進だ。

特別委は現地視察を行うため、国会の議論で浮かんだ問題点を検証することも可能になる。最近、個人的にスーダンを視察したが、現地の日本大使館は専門調査員も含め職員が6、7人しかいなかった。現地のODAはNGOやコンサルタンの企画を採用して行っているが、職員は首都での一般業務をこなすのが精いっぱい。援助の現場を見るのもままならない状態だ。逆に、東京にいる外務省、国際協力機構（JICA）の職員が多すぎるのではないか。こうした問題も現地に足を運ばないと見えてこない。

政府はODA改革として、企画立案を統括する首相直轄組織を設けたり、実施機関の一元化を図ることを検討していると聞いている。ODAの有効性、効率化を高めるには必要なことだろう。ただ、組織を整えればすべてが解決するわけではない。ODAが日本の国益にかなった使われ方をしているのか、効果を見極める必要があり、それは私たち政治に課せられた責任でもある。